

めん羊・山羊の改良増殖等をめぐる情勢

平成26年6月

農林水産省

生産局畜産部畜産振興課

目次

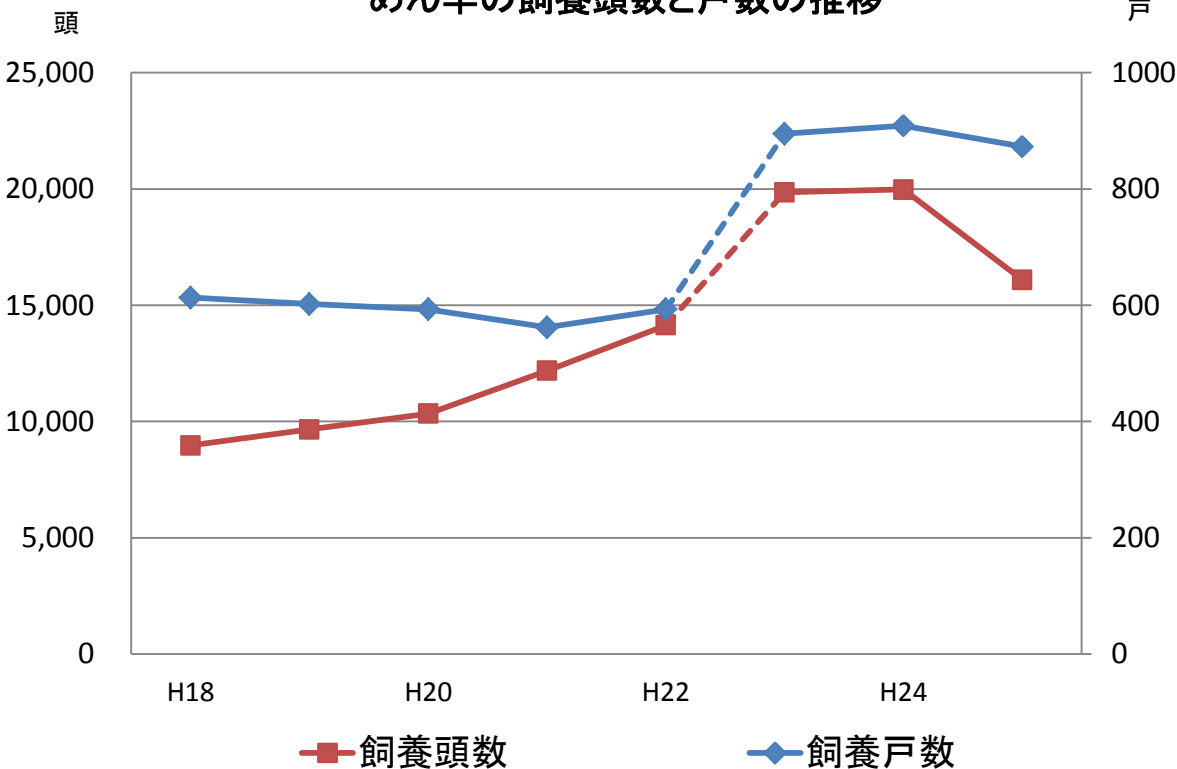
1. めん羊	1
(1) 飼養頭数・戸数の推移	
(2) 地域別飼養頭数	
(3) めん羊の畜産物利用(羊肉、羊毛)について	
(4) <めん羊>今後の種畜体制について	
(5) めん羊の能力評価手法の検討について	
(6) めん羊能力計算ソフトについて	
2. 山羊	7
(1) 飼養頭数・戸数の推移	
(2) 地域別飼養頭数	
(3) 山羊の畜産物利用(山羊肉、山羊乳)について	
(4) <山羊>今後の種畜体制について	
(5) 山羊の能力評価手法の検討について	
(6) 山羊泌乳量計算ソフトについて	
3. めん山羊の人工授精について	13
4. 登録規程の簡素化について	14
5. 東北・北関東におけるめん山羊の放牧自粛について	15
6. めん羊の改良増殖目標(目標年度:平成32年度)	16
7. 山羊の改良増殖目標(目標年度:平成32年度)	17
8. 優良事例	18

1.めん羊

(1) 飼養頭数・戸数の推移

- 総飼養頭数16,000頭、飼養戸数900戸程度(H25)
- 我が国で飼養されている品種は、主にサフォーク種。

めん羊の飼養頭数と戸数の推移



年次	飼養頭数	飼養戸数	1戸あたり頭数
平成18年	8,970	613	14.6
19	9,660	602	16.0
20	10,342	593	17.4
21	12,186	562	21.7
22	14,140	593	23.8
23	19,852	895	22.2
24	19,977	909	22.0
25	16,096	873	18.4



<サフォーク種>

原産地：英国のサフォーク州が原産。在来種のノーフォーク・ホーンにサウスダウンを交配して作られた大型の肉用種

体重：雄100～135kg、雌70～100kg

羊毛：白色の半光沢、毛長：8.0～11.0cm

毛量：2.5～4.0kg

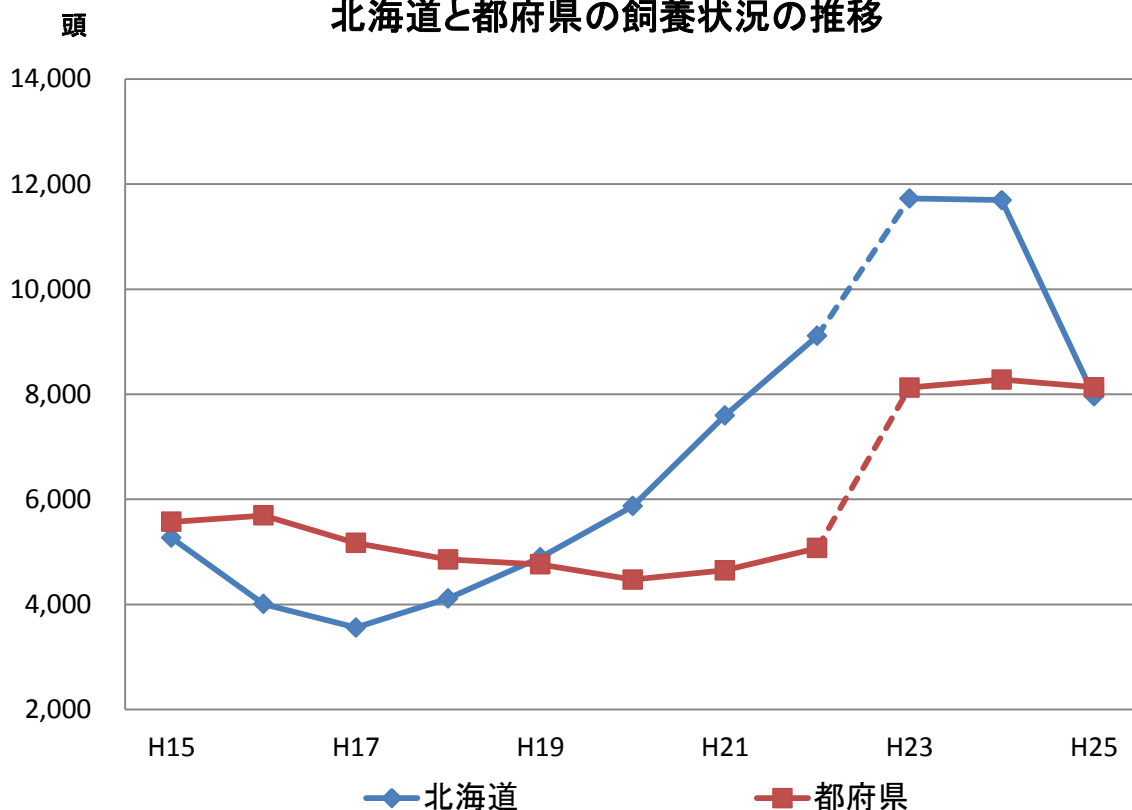
特徴：早熟早肥で産肉性に富み、良質のラム肉を生産。世界各国で肉生産用の交配種として広く飼養されている。頭部と四肢には羊毛がなく、黒色短毛で覆われている。

※(資料)H10～22年度は、(公社)中央畜産会「家畜改良関係資料」 H23～25年度は、動物衛生課「家畜の飼養に係る衛生管理の状況等の公表について」によるため、データの連続性はない。

(2) 地域別飼養頭数

- 約半数は北海道で飼養。
- 北海道はH17から増加傾向にあったが、H25は8,000頭程度。都府県はほぼ横ばいで推移。
- 肉用が主。

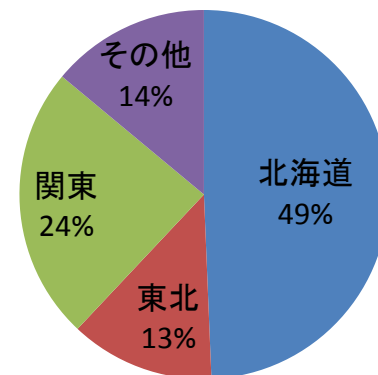
北海道と都府県の飼養状況の推移



めん羊地域別飼養頭数(H25)

	地域	飼養頭数 (頭)	割合
1	北海道	7,963	49%
2	長野	1,034	6%
3	栃木	650	4%
4	岩手	604	4%
5	千葉	581	4%
6	山形	541	3%
7	静岡	381	2%
8	神奈川	358	2%
9	群馬	319	2%
10	青森	302	2%
総飼養頭数		16,096	

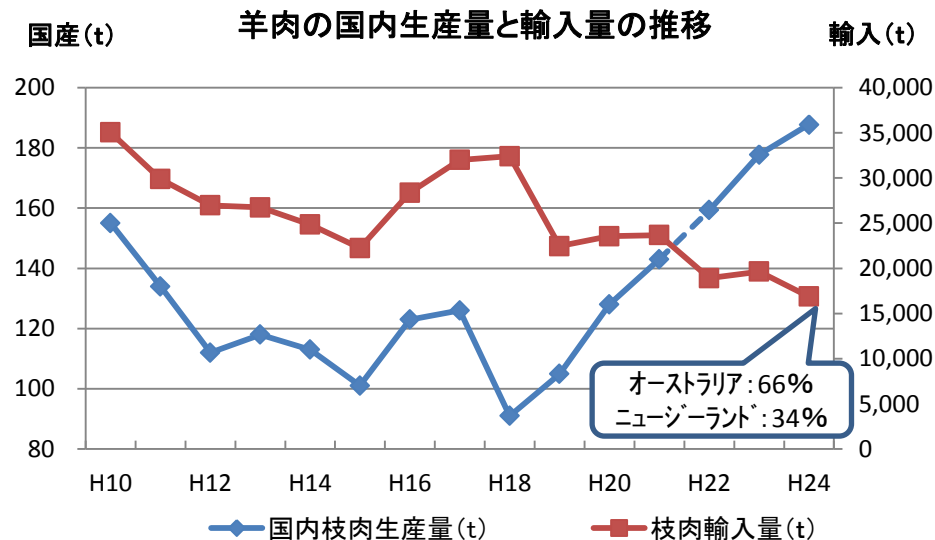
めん羊の地域別飼養頭割合(H25)



※(資料)H10～22年度は、(公社)中央畜産会「家畜改良関係資料」 H23～25年度は、動物衛生課「家畜の飼養に係る衛生管理の状況等の公表について」によるため、データの連続性はない。

(3) めん羊の畜産物利用(羊肉・羊毛)について

- 国内枝肉生産量は180t強/年程度で、平成18年度以降増加傾向で推移。
- 枝肉輸入量は冷凍肉の減少により、減少傾向で推移。輸入先はオーストラリア、ニュージーランド。
- 2014年5月、国内外のBSE(牛海綿状脳症)リスクが低下していることを踏まえ、月齢12ヶ月齢以上の羊と山羊の食肉処理時に実施している検査を廃止する方針が決定されたところ。



	国内と畜頭数(頭)	国内生産量(t) (枝肉ベース) a	輸入量(t) (枝肉ベース) b	総量(t) a+b	国内産割合
平成18年	3,291	91	32,422	32,513	0.3%
平成19年	3,792	105	22,455	22,560	0.5%
平成20年	4,442	128	23,558	23,686	0.5%
平成21年	5,252	143	23,673	23,816	0.6%
平成22年	5,447	159	18,913	19,072	0.8%
平成23年	6,078	178	19,639	19,817	0.9%
平成24年	6,418	188	16,879	17,067	1.1%

国産羊肉は、生産者から首都圏の飲食店等に直販、インターネットを活用して販売されている。

注: H18~21年農林水産省「畜産物流通統計」
H22~24年「と畜頭数」:厚生労働省「食肉検査等情報還元調査」、「国内枝肉生産量」:
と畜頭数にH17~21年の過去5カ年の1頭あたり枝肉重量の平均値を乗じたもの

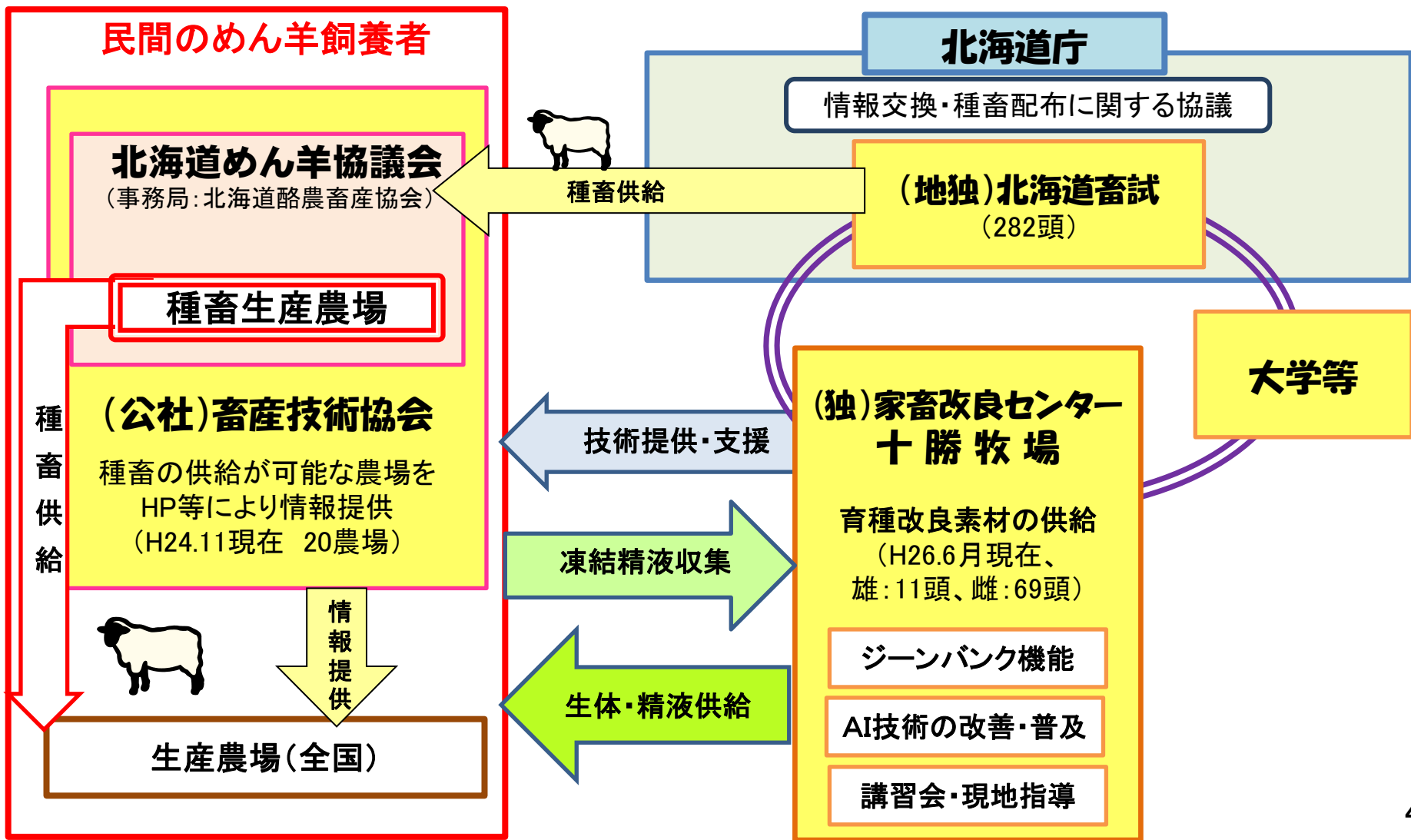
- 羊毛はほぼ輸入に依存しており、国内生産はほとんど行われていない。輸入先はオーストラリア、ニュージーランドの2国で半数を占める。
- 国産羊毛の質の向上と販売ルート確保を目指した取組として国産羊毛コンテスト「Fleece of the year」が2011年から開催されているところ。



国産羊毛コンテスト入賞者に贈られる看板とロゼッタ。看板は戸外に飾ることも出来、優秀な生産者の証として、各牧場に飾られる。

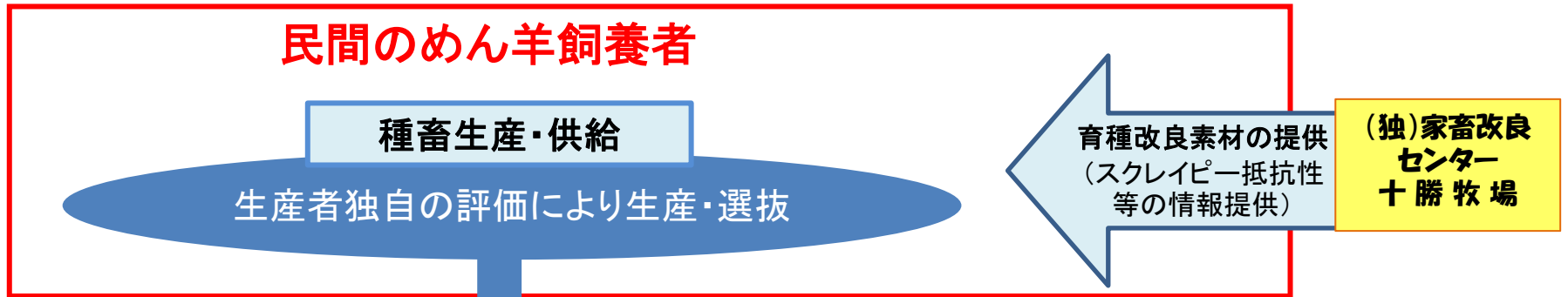
(4) <めん羊> 今後の種畜供給体制について

- めん羊の種畜生産・供給は現在、民間主体で行われており、北海道めん羊協議会を拠点とした種畜供給体制の移行に向けた協議が行われているところ。
- 民間と競合した取組とならないよう、(独)家畜改良センターは民間への育種改良素材の供給に特化。



(5) めん羊の能力評価手法の検討について

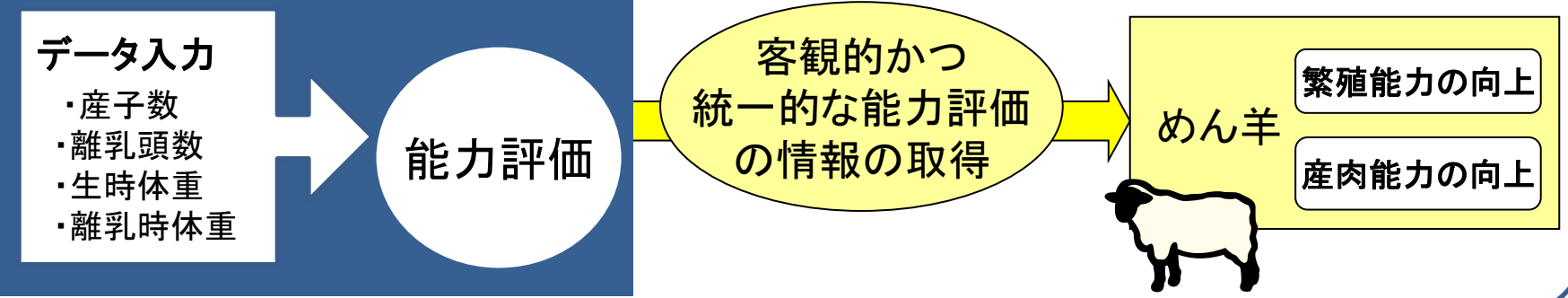
○ 民間での統一的な能力評価の手法はないことから、生産者が自らが行える簡易な評価手法の作成に向けた取組が行われている。客観的な指標により母系の選抜や、発育状況の把握が行えることが可能。



客観的な評価手法を用いた計画的な改良増殖が必要

生産者が自ら行える簡便で統一的な評価手法を作成中
((公社) 畜産技術協会)

<生産者による評価計算ソフトの活用>



(6) めん羊能力計算ソフトについて

- 現在、畜産技術協会では、離乳時体重に影響を与える母羊の年齢、分娩型—哺育型の違いを補正することで群内の子羊の発育状況等を客観的に評価するソフトを作成中であり、27年度中に、同協会から、広く配布する見込み。
- また、現在収集中の民間データを用いて現在の補正係数を改定することから、新たな補正係数を現状評価や次期目標の検討に当たって活用する見込み。

<めん羊能力計算ソフト(作成中)>

めん羊の生時体重、離乳時体重から、子羊の発育状況把握や群内の種畜選抜に利用可能な補正体重を算出することを目的としたソフト。母羊の年齢、分娩型—哺育型、性別の違いが離乳時体重へ与える影響を反映したものとなっている。

めん羊能力計算ソフト(イメージ)

名号		
血統	父母	
血統番号		
生年月日		

分娩日		産次	
-----	--	----	--

産子数		離乳頭数	
-----	--	------	--

	性別	生時体重		⇒	〇〇日体重	
1			kg			kg
2			kg			kg
3			kg			kg

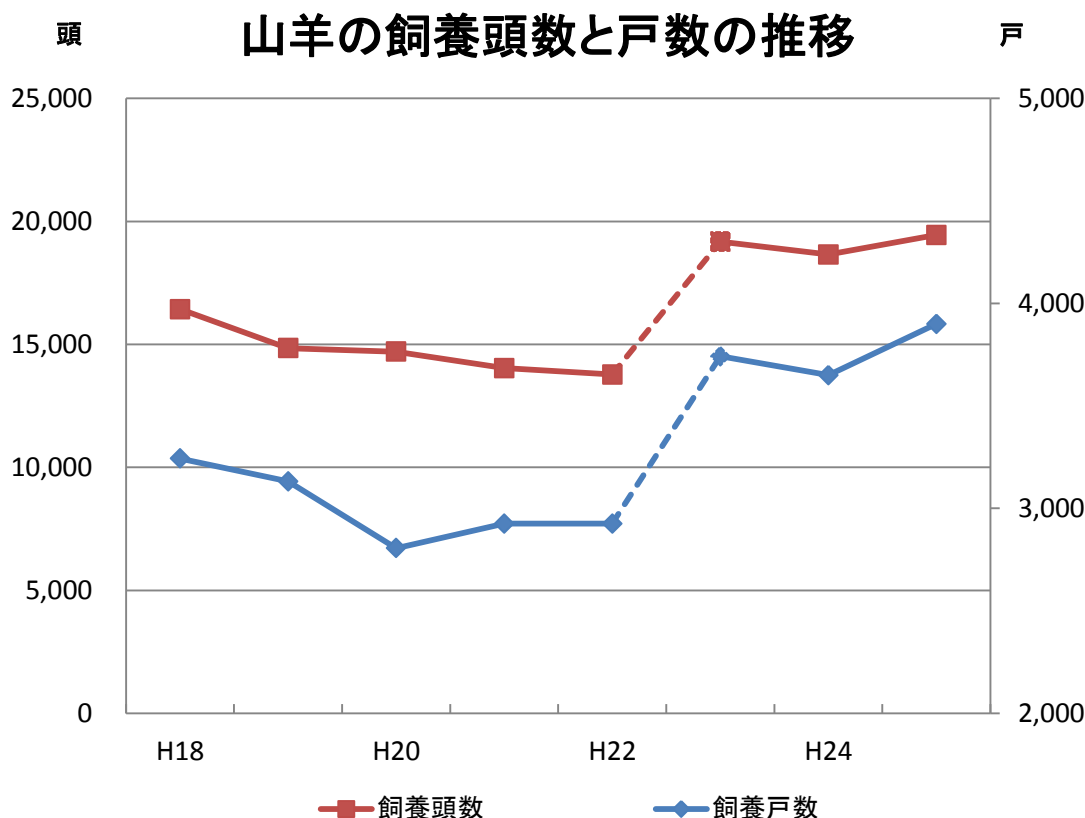
【参考】 母羊の年齢、分娩—哺育型等による離乳時体重の差と補数係数

要因	4ヶ月齢 離乳時体重	補正係数	
母羊の年齢	2才	36.9	1.12
	3才	37.8	1.10
	4才	38.8	1.07
	5才	41.5	1.00
	6才	37.5	1.09
	7才	38.0	1.09
	分娩—哺育型	単子—一子	43.0
単子—二子		40.7	1.06
双子—一子		38.4	1.12
双子—二子		37.2	1.16
三子—一子		37.2	1.16
三子—二子		35.8	1.20
三子—三子		33.1	1.30

2.山羊

(1) 飼養頭数・戸数の推移

- 総飼養頭数1万9千頭程度、飼養戸数3900戸(H25)
- 飼養頭数、飼養戸数ともにほぼ横ばい
- 主に飼養されている品種は泌乳能力に優れた日本ザーネン種で、その他、順応性に優れたアルパイン種や乳脂率の高いヌビアン種などが少頭数飼養されているところ。



年次	飼養頭数	飼養戸数	1戸あたり頭数
平成18年	16,428	3,243	5.1
19	14,845	3,131	4.7
20	14,702	2,806	5.2
21	14,033	2,925	4.8
22	13,771	2,925	4.7
23	19,183	3,742	5.1
24	18,655	3,650	5.1
25	19,454	3,900	5.0

<ザーネン種>

原産地: スイス西部ベルン県
ザーネン谷で最も代表的な乳用種

体高: 75~80cm

体重: 雄70~90kg、雌50~60kg

泌乳: 期間は270~350日で、年間乳量は500~1,000kg

特徴: 被毛は白色、耳が立ち、無角が多いが、有角の角はサーベル型。雌雄とも毛髯を持ち、内髯はもつものもたないものがある。日本ザーネン種は、このザーネン種を改良したもので、わが国の乳用山羊はこの品種で占められている。

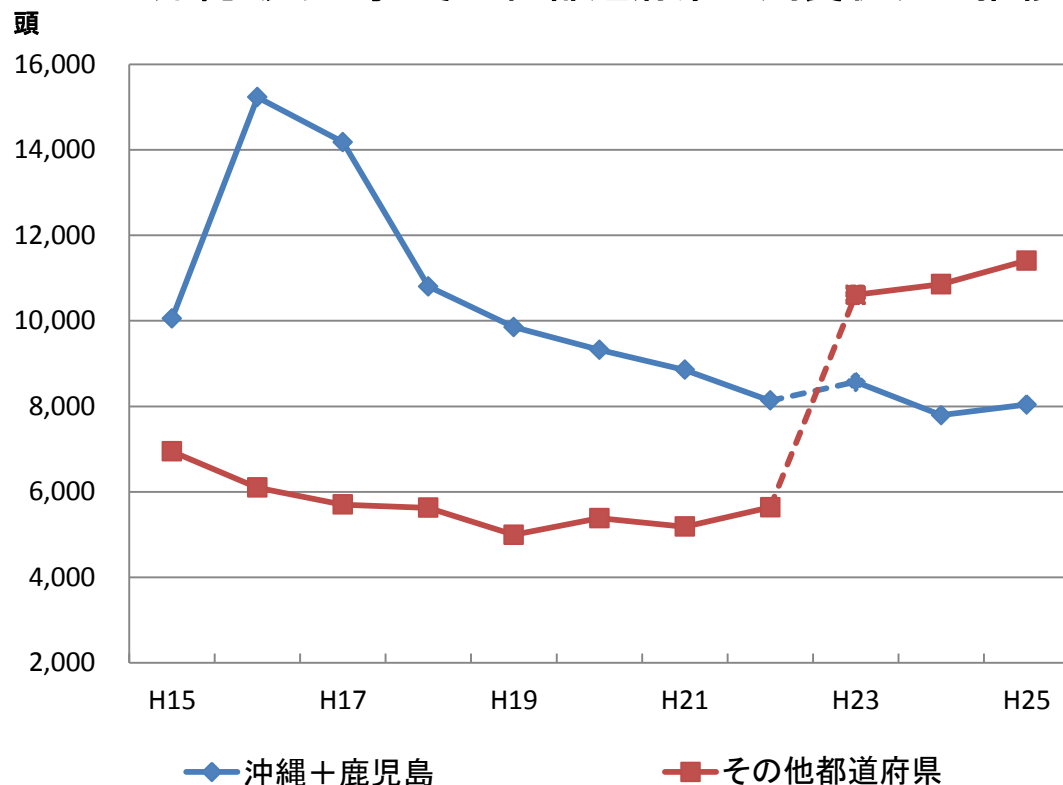


※(資料)H10~22年度は、(公社)中央畜産会「家畜改良関係資料」 H23~25年度は、動物衛生課「家畜の飼養に係る衛生管理の状況等の公表について」によるため、データの連続性はない。

(2) 地域別飼養頭数

- 飼養頭数は沖縄で最も多いが、沖縄・鹿児島は割合は5割程度となっており、近年は減少傾向。
- 沖縄、九州は肉用、その他の地域は乳用が主。

沖縄・鹿児島とその他の都道府県の飼養状況の推移

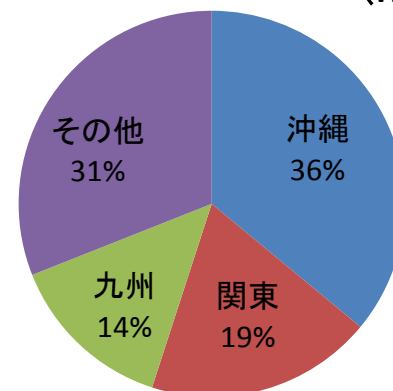


※(資料)H10~22年度は、(公社)中央畜産会「家畜改良関係資料」 H23~25年度は、動物衛生課「家畜の飼養に係る衛生管理の状況等の公表について」によるため、データの連続性はない。

山羊の地域別飼養頭数(H25)

順位	地域	飼養頭数 (頭)	割合
1	沖縄	7,019	36%
2	北海道	1,212	6%
3	鹿児島	1,024	5%
4	長野	748	4%
5	熊本	630	3%
6	茨城	577	3%
7	群馬	563	3%
8	千葉	475	2%
9	岡山	468	2%
10	愛知	419	2%
総飼養頭数		19,454	

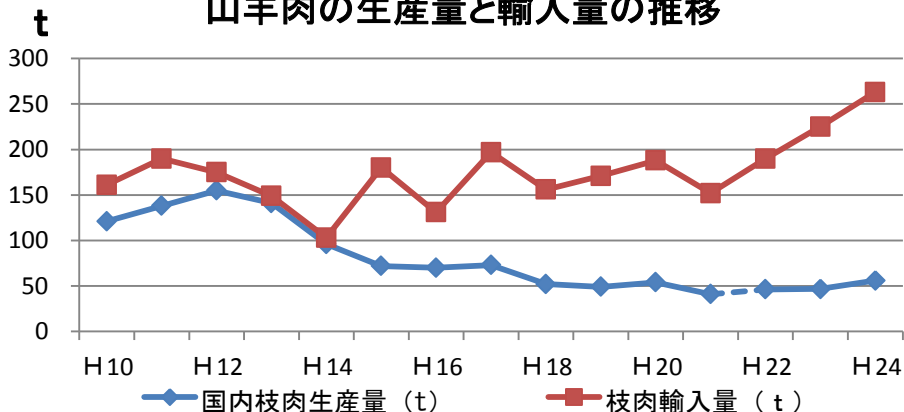
山羊の飼養頭数の地域別割合 (H25)



(3) 山羊の畜産物利用(山羊肉・山羊乳)について

- 国内枝肉生産量は、おおよそ50トン/年で、ほぼ横ばいで推移。沖縄料理での肉利用がほとんどであるが、一部フランス料理など的高级食材としての利用もみられるところ。
- 枝肉輸入量は増加傾向で推移しており、平成24年度で263トン、輸入先は100%オーストラリア。

山羊肉の生産量と輸入量の推移



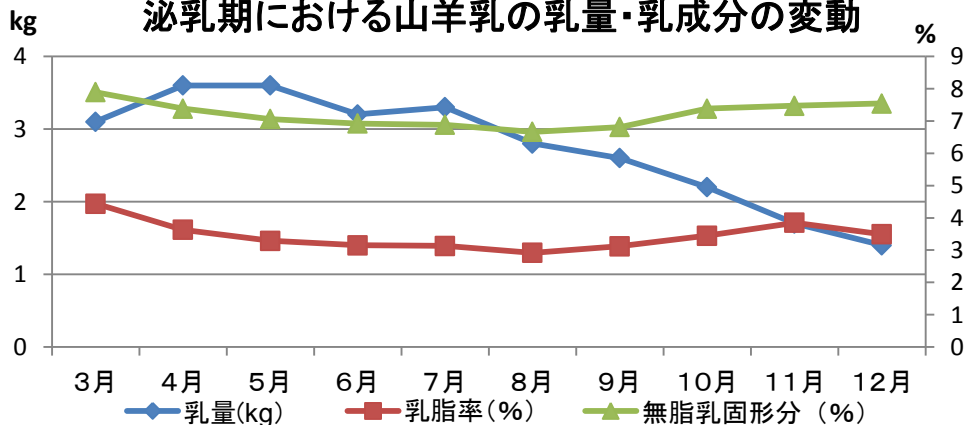
	国内と畜頭数(頭)	国内生産量(t) (枝肉ベース) a	輸入量(t) (枝肉ベース) b	総量(t) a+b	国内産割合
平成18年	2,757	52	156	208	25%
平成19年	2,640	49	171	220	22%
平成20年	2,726	54	188	242	22%
平成21年	2,429	41	152	193	21%
平成22年	2,417	46	190	236	20%
平成23年	2,445	47	225	272	17%
平成24年	2,933	56	263	319	18%

注: H18~21年農林水産省「畜産物流通統計」

H22~24年「と畜頭数」: 厚生労働省「食肉検査等情報還元調査」、「国内枝肉生産量」: と畜頭数にH17~21年の過去5カ年の1頭あたり枝肉重量の平均値を乗じたもの

- 山羊乳は、牛乳に含まれる乳糖アレルギー成分がない特性から飲用としても注目されているところ。また、チーズなどの加工品への利用もみられるところ。
- 現在の殺菌山羊乳の成分規格は、無脂固形分8%以上、乳脂肪分3.6%以上となっているが、山羊乳の乳成分は季節や飼養管理等による変動が大きく、基準値を下回ることから、現状を踏まえた見直しが行われる予定。

泌乳期における山羊乳の乳量・乳成分の変動



殺菌山羊乳の成分規格について

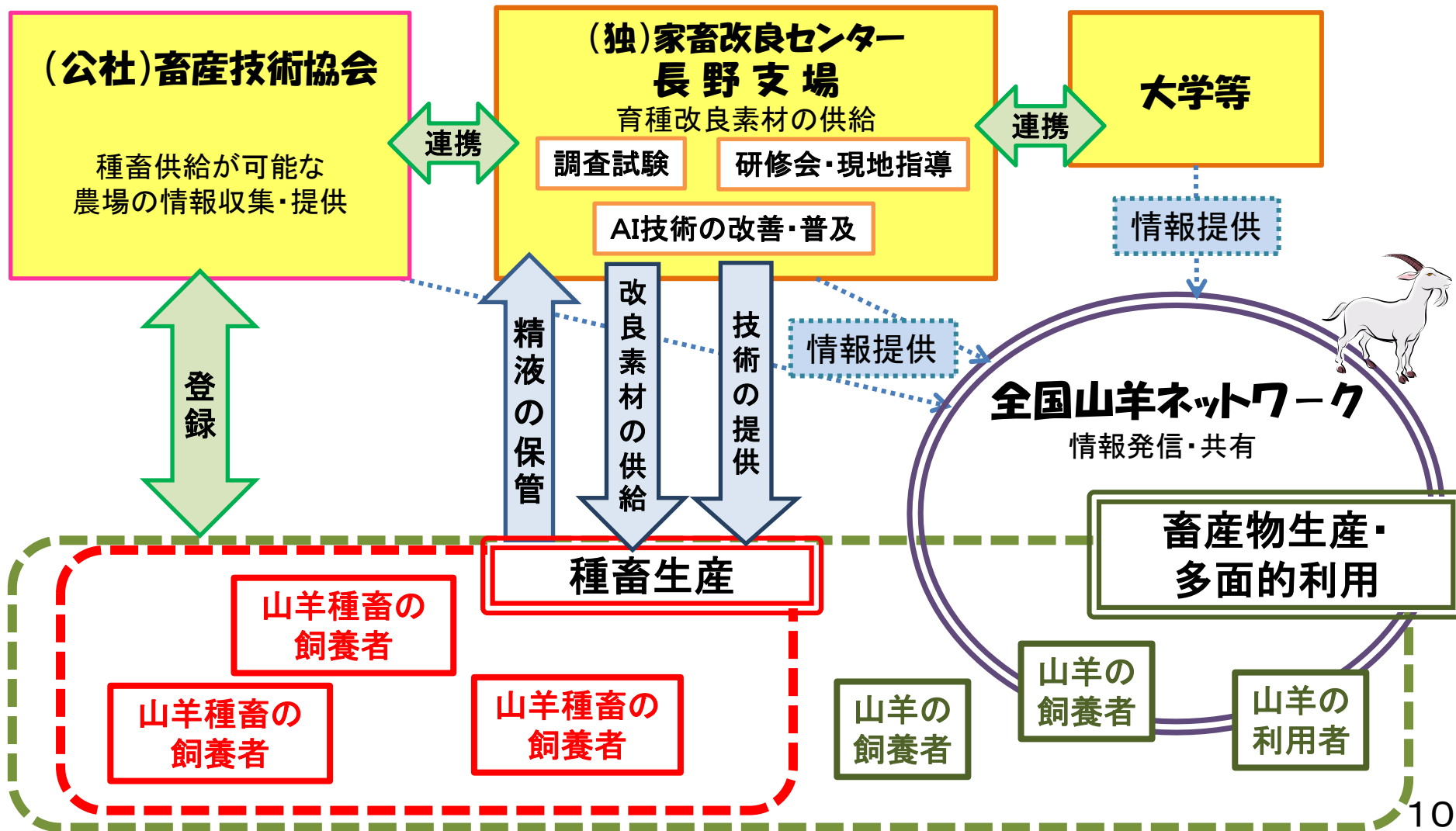
	現行	改正予定
無脂乳固形分	8.0%以上	7.5%以上
乳脂肪分	3.6%以上	2.5%以上

山羊乳の生産量に関する統計はないが、北陸地方や中国地方における山羊乳加工の取組は、関係者の間で知られているところ。

資料: (独)家畜改良センター長野支場(H25)

(4) <山羊>今後の種畜供給体制について

- 山羊の種畜生産・供給は現在、民間主体で行われており、円滑な種畜供給が行われるよう、関係者が関連情報を共有できる仕組みづくりが必要。
- 民間と競合した取組とならないよう、(独)家畜改良センターはめん羊と同様に民間への育種改良素材の供給に特化。



(5) 山羊の能力評価手法の検討について

- 民間での統一的な能力評価の手法はないことから、生産者が自らが行える簡易な評価手法の作成に向けた取組が行われているところ。客観的な指標により母系の選抜や、発育状況の把握が行えることが可能。

民間の山羊飼養者

種畜生産・供給

生産者独自の評価により生産・選抜

育種改良素材の提供
(母の泌乳成績・産次
等の情報提供)

(独)家畜改良
センター
長野支場

客観的な評価手法を用いた計画的な改良増殖が必要

生産者が自ら行える簡便で統一的な評価手法を作成中
((公社) 畜産技術協会)

<山羊泌乳量計算ソフトの活用>

データ入力

- ・産次数
- ・乳量
- ・分娩後日数

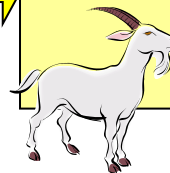
能力評価

客観的かつ
統一的な能力評価
の情報の取得

山羊

乳量の向上

繁殖能力の向上



(6) 山羊泌乳量計算ソフトについて

- 現在、畜産技術協会では、産次、分娩後日数、1日当たり乳量から、年間乳量の予測が可能な「山羊泌乳量計算ソフト」を作成中であり、27年度中に、同協会から、広く配布する見込み。
- また、同ソフトを活用し、現在収集中の民間データから年間乳量を算出し、現状評価や次期目標の検討に当たって活用する見込み。

<山羊泌乳量計算ソフト(作成中)>

山羊の1乳期の泌乳データから、250日換算平均乳量および泌乳曲線を推定することを目的としたソフト。産次の違いによる乳量への影響も反映したものとなっている。

山羊泌乳量計算ソフト(イメージ)

名号		
血統	父	
	母	
血統番号		
生年月日		

分娩日		産子数	
-----	--	-----	--

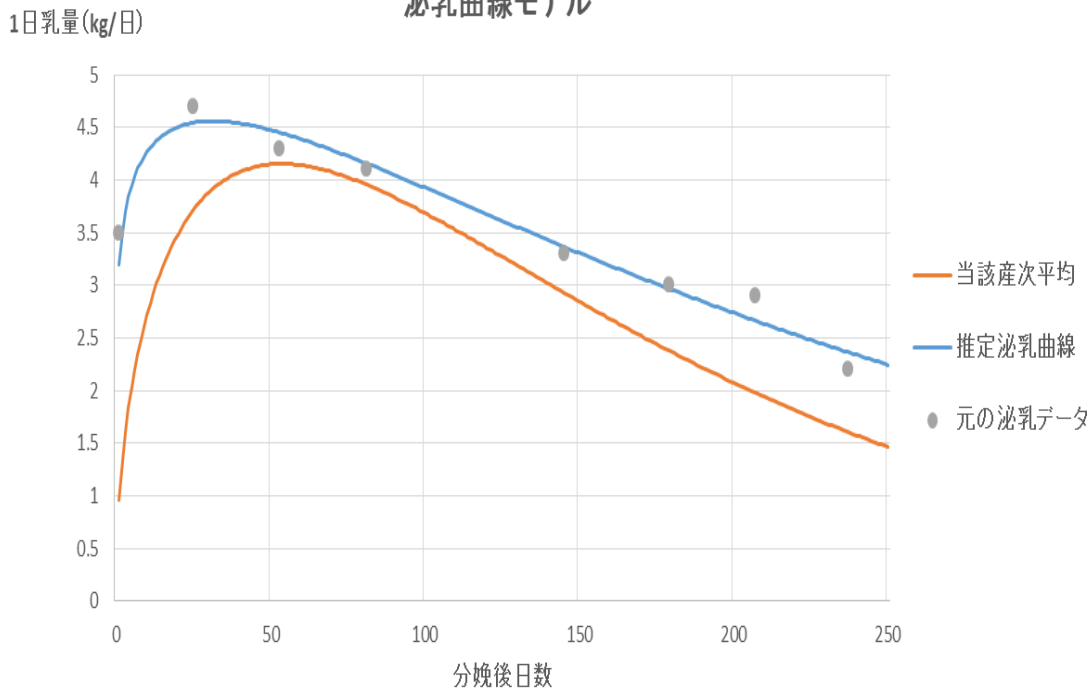
産次 産

分娩後日数 日

乳量 kg/日

250日換算平均乳量は kgです。

泌乳曲線モデル



めん山羊の人工授精について

- 人工授精は伝染性疾病の予防、種畜の高度利用、家畜改良の促進等を目的とした技術である。
- めん山羊では自然交配が一般的で、人工授精器具が高価であることや、人員が必要となることから、人工授精はあまり普及していないが、一部において凍結精液を利用した人工授精(季節外繁殖を含む)が行われている。
- (独)家畜改良センターで牛用のシース管を用いた簡易注入による受胎率調査が行われているなど、めん山羊の人工授精では簡易な方法の確立、受胎率向上が課題となっている。

【膣深部人工授精】



めん山羊を立たせたまま実施可能。精液注入器は市販の牛用で代用が可能で、人員も1名で行うことが可能。受胎率については低いことから、受胎率向上に向けた検討が行われている。

【子宮内人工授精(Lapa)】



腹腔内視鏡を使用し、腹壁から直接子宮内に精液を注入。凍結精液による受胎率は50～60%と高いが、器材が高額で高度な技術、人員を要する。

【頸管人工授精】



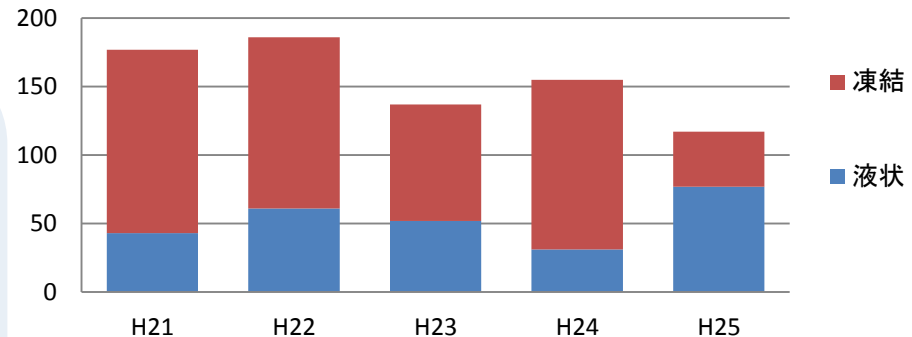
めん山羊を倒立状態で保定して、膣鏡で確認しながら子宮頸管外口部に注入。凍結精液での受胎率は20～30%と低く、人員は2～3名を要する。

めん羊の凍結精液配布本数の推移

年度	配布本数
H23	37
H24	43
H25	22

資料：(独)家畜改良センター十勝牧場
液状での配布実績はなし。

山羊の精液配布本数



山羊の人工授精受胎率の推移 (液状精液のみの成績)

年度	延べ頭数 (AI回数)	受胎数	受胎率
H21	10	2	20.0%
H22	58	25	43.1%
H23	56	25	44.6%
H24	53	42	79.2%
H25	66	42	63.6%

資料：(独)家畜改良センター長野支場

登録規程の簡素化について

- 近年は、国内のめん山羊は時代の変化やニーズに対応して、登録規程に定めた登録対象品種以外に多様な品種の導入が始まりつつあるため、登録規程を改正。品種を限定せずに多品種を登録できるようにしたところ。
- 山羊では、複雑な仕組みや、登記と登録時の2段階以上の審査・検査が必要であったことが登録頭数減少の一因であったため、登録制度を簡素化。

めん羊

- 日本コリデール種登録規程
- 肉用種緬羊登録規程



日本めん羊登録規程

品種毎に存在していた登録規程を整理

山羊

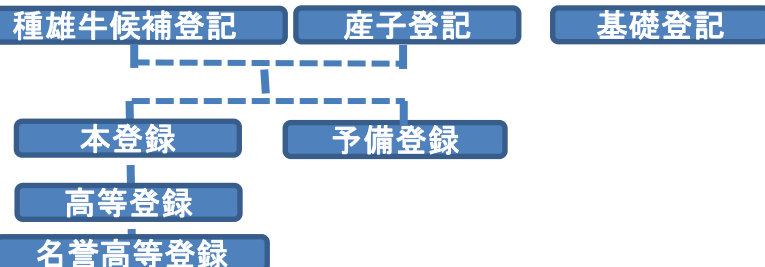
- 日本ザーネン種山羊登録規程



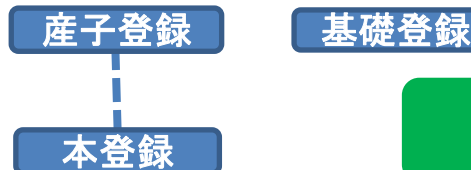
日本山羊登録規程

品種が限定されていた登録規程を見直し

<旧>



<現行>



登記、高等登録、
名誉高等登録の廃止

サフォーク種の登録頭数の推移

(単位:頭)

	血統登録		予備登録		種緬羊登録	
	雄	雌	雄	雌	雄	雌
平成5年	208	836	21	14	6	28
10年	84	255	1	19	—	—
15年	107	233	1	22	—	—
20年	123	470	1	156	—	—
24年	67	420	16	66	—	—

資料:(公社)畜産技術協会

サフォーク種の血統登録頭数は飼養頭数の減少に伴い、減少し、24年度には487頭まで減少。

日本ザーネン種の登録頭数の推移

(単位:頭)

	本登録	
	雄	雌
平成5年	31	107
10年	27	105
15年	15	68
20年	13	51
24年	15	42

日本ザーネン種の本登録頭数は飼養頭数の減少に伴い、減少し、24年度には57頭まで減少。

東北・北関東におけるめん山羊の放牧自粛等について

- めん山羊は牛と比較して、放射性物質が体内へ移行する割合が大きいこと、放牧時に根に近いところまで採食するため、土に含まれる放射性物質の影響を受け易いことから、飼料中の暫定許容値が定められないため、東北・北関東地域においては、放牧等の自粛を通知。
- ただし、放牧等を行った家畜についても、県等の指導に基づき舎飼等による飼い直しを行った上、と畜場等において放射性物質検査を行う場合は、食肉としての出荷を認めていることから、これら取組の継続により安全性を確保することが必要。

(なお、最終的に食用に供さないめん山羊の移動については、自粛の対象とはなっていない。)

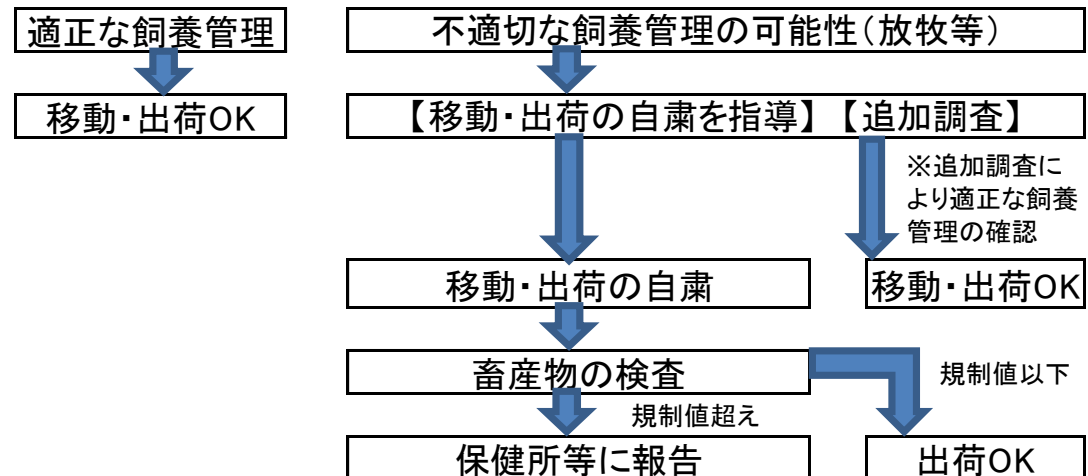


(参考1) 放射性セシウムの飼料から畜産物への移行係数(最大値)

	肉	乳
牛	0.096	0.068
羊	1.3	0.32
山羊	1.9	0.33

※IAEA, Handbook of parameter values for the prediction of radionuclide transfer in terrestrial and freshwater environments. TRS 472, IAEA, Vienna, 2010

(参考2) 調査及び判定後の流れについて



めん羊の改良増殖目標（目標年度:H32年度）

- 1 能力
 - (1)産肉能力
発育性、増体性及び枝肉歩留まりの向上に努める。
 - (2)繁殖能力
受胎率、産子数、ほ育能力(1腹あたり離乳頭数)等の向上に努める。
- 2 体型
強健で肢蹄が強く、体積に富み、後躯が充実し、体各部の均称のとれたものとする。

第9次家畜改良増殖目標の進捗状況【数値目標】

	4ヶ月齢時体重		1腹あたり 離乳頭数
	雄	雌	
策定時 (平成21年度)	42kg	34kg	1.4頭
現状 (平成25年度)	41kg	40kg	1.6頭
目標 (平成32年度)	43kg	39kg	1.5頭

(注1)サフォーク種のものである

(注2)現状値(公社)畜産技術協会より(雄88頭、雌:112頭のデータを用い、DGにより120日齢時に換算した数値に母羊の年齢、分娩一哺育型を補正)

(注3)1腹当たりの離乳頭数は、4ヶ月齢離乳頭数のものである

なお、サフォーク種の初期生育が早期化し、現在では3ヶ月齢で離乳が一般的となっている。

	3ヶ月齢時体重	
	雄	雌
現状 (平成25年度)	30kg	32kg

(注1)サフォーク種のものである。

(注2)現状値:畜産技術協会より(雄:88頭、雌:112頭のデータを用い、DGより90日月齢時に換算した数値に母羊の年齢、分娩一哺育型を補正)

山羊の改良増殖目標（目標年度:H32年度）

1 能力

(1)繁殖能力

受胎率、産子数、ほ育能力等の向上に努める。

(2)泌乳能力

乳量の向上に努める

(3)産肉能力

肉用にあつては、発育性、増体性及び枝肉歩留まりの向上に努める。



2 体型

○強健で肢蹄が強く、体積に富み、体各部の均称がとれ、飼養管理が容易な体型とする

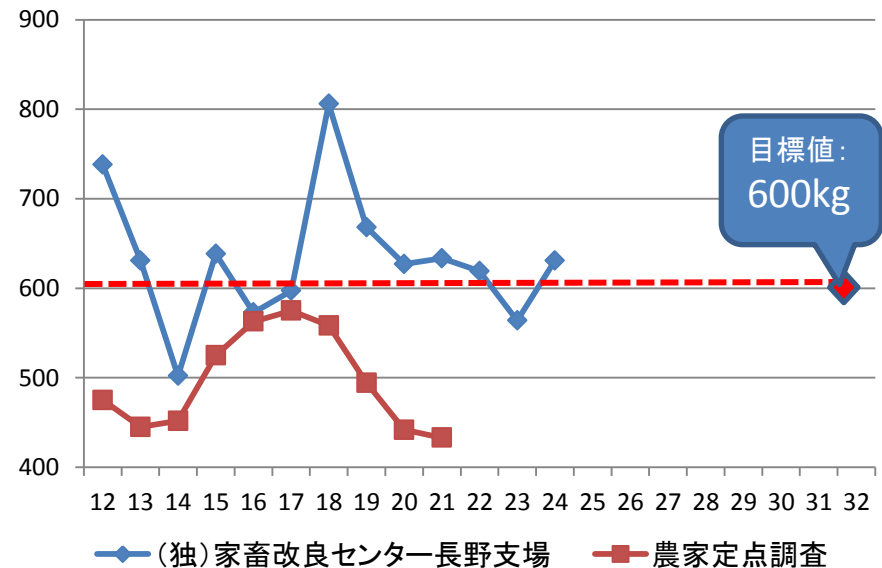
○乳用にあつては、乳器に優れ、搾乳が容易な体型への改良

第9次家畜改良増殖目標の進捗状況【数値目標】

	総乳量(250日換算)	(参考)※
策定時 (平成21年度)	433kg	633kg
現状 (平成24年度)	—	631kg
目標 (平成32年度)	600kg	—

注:日本ザーネン種のものである。

※(参考):家畜改良センター長野支場における成績



※山羊は3~4産目が泌乳ピークとなるが、H18年度は泌乳ピークとなる産次の山羊が重なったため、高い値となっている。

優良事例 ①

産学連携による山羊乳ビジネスの推進

(沖縄県中城村: 農業生産法人株式会社はごろも牧場)

◇概要

平成11年、創業者の新城将秀氏が建設業界の不振のおそれから、異業種への参入を検討している中、山羊乳に関する聴講をきっかけに有限会社はごろも牧場を設立し、平成13年の殺菌山羊乳「やぎみるく」の販売開始以来、「のむやぎミルクヨーグルト」やナチュラルチーズ等新製品を開発・販売。



◇活用している地域資源

山羊乳の機能性解明、用途開発、販路開拓にパイオニアとして挑戦し、平成18年からは産官学連携による多面的利用に向けた研究開発に取り組む。

(ア) 琉球大学との産学連携により、

- ① 乳中に含まれる機能性成分である共役リノール酸の含有量を2倍以上に増加させる技術を開発
- ② 山羊乳はペット用としても活用されていることに注目し、イヌ・ネコなどの下痢(乳糖不耐症)の原因となる乳糖の除去技術を開発。

(イ) 山羊乳チーズ、山羊乳配合石けんの販路拡大に向け取組



◇地域活性化のポイント

沖縄県では、山羊肉の料理はヒージャーグスイ(山羊薬)と精力のつく貴重な食べ物として、現在でも新築祝いや農作業の節目には山羊鍋を振舞う風習が残っている。このため、肉用の山羊飼養農家との連携により、沖縄の山羊生産の振興に貢献。

◇事業の今後の展開方向

山羊乳には美容効果のある成分が含まれていることは古くから指摘されてきたが、科学的根拠に乏しい。今後は産官学連携をさらに推進しこれらの機能性の解明に取り組むとともに、沖縄のスパ業界、コスメ業界とも連携しながら化粧品等を開発

優良事例 ②

○ 離農跡地を活用した新しい産業の創出 (新潟県上越市:ファーストファーム株式会社)

上越市内の旧東頸城郡では、農業従事者の高齢化や担い手不足による耕作放棄地の増加や山林の荒廃が著しく、このままでは自然豊かであった農山村資源の亡失のおそれがあった。

そこで、農による新たな産業創出の場として活用するため、平成15年9月に地元地域の有志5人で法人を設立し、

(ア) 離農跡地を活用し、素晴らしいロケーションに立地した、癒し効果のある小動物牧場を経営

(イ) 山羊、めん羊等の子畜を市内小学校に貸し出すことにより牧場ファン、リピーターの増加を図り、ヤギ乳100%使用のジェラードを特産品として販売

(ウ) 離農跡地を活用し、酒米を栽培し、オリジナル吟醸酒を販売



◇活用している地域資源

地元の木工所から入手したオガクズを敷料として活用するとともに、スーパーや小売店の廃棄野菜を飼料として活用

◇地域活性化のポイント

小動物牧場は、関田山脈から妙高山、日本海まで見渡せる300度のパノラマロケーションを商品にした観光地となっており、また、豊富な知恵、技術を持つ高齢者等のパート雇用による地域活性化

◇事業の今後の展開方向

アイスクリームだけでなく、牛乳に比較しヤギ乳の優れた成分を活かして今までにないヤギ乳のバター等の加工食品を開発。また、ヤギ乳増産のため、地域の高齢者等にヤギの飼育委託をし、ヤギ乳を確保をするとともに、遊休地の除草や生きがい対策に貢献。

優良事例 ③

○山羊を利用した棚田保全と山羊乳・チーズ販売 (福井県池田町:GORIファーム・TAKARAチーズ工房)

◇概要

町で推進している有機農業を目指して米・野菜を生産するなか、循環型農業を検討。家畜の堆肥を利用するため、平成17年から2頭の山羊を導入し、飼養を開始。春～晩秋にかけ水田畦畔、川の土手の草等を利用して山羊を放牧。山羊の糞は堆肥化し、米・野菜の肥料として利用。一方、平成19年にTAKARAチーズ工房を立ち上げ、山羊乳を使用したチーズ、ヨーグルト飲料等の乳製品加工に取り組む。チーズ等は地元のレストランや道の駅、インターネット等で販売。2013年、「オールジャパン・ナチュラルチーズコンテスト」に山羊チーズを出品し、金賞を受賞。また、牧場体験なども実施し、観光にも取り組んでいる。



◇活用している地域資源

国土交通省で実施している河川敷の刈草の無償提供

◇地域活性化のポイント

地元の道の駅やレストラン、イベント等に山羊の乳製品を提供する他、山羊とのふれあいにも配慮した情報発信を行うなど地域の観光資源の提供。

山羊の放牧で、地域の田畑を荒らしていたイノシシの対策となったことにより、棚田の保全管理に寄与。

◇事業の今後の展開方向

山羊体験の体験メニューを増やし、観光化を図るとともに、ファームと連動した製品開発や販売をすすめる。